

1-2-16 県指定・三重塔

〈県指定〉昭和 49 年 11 月 13 日

〈所有者〉国分寺

〈所在地〉総和町 1 丁目 83 番地

〈時代〉文政 4 年（1821）

〈員数〉1 棟

三重塔（1 棟）桁行、梁間ともに 4.24m、塔の高さ礎石上端より宝珠上端まで 22m、屋根銅平板葺

天平 13 年（741）の詔勅により建立された塔婆^{とうぼ}も、弘仁 10 年（819）に炎上し、斉衡^{さいこう}年中（854～857）に再建した。応永年間（1394～1428）さらに兵火にかかったと伝えられる。その後再建されたが、戦国時代金森が松倉城の三木^{みつぎ}攻めに際し損傷し、元和元年（1615）、金森可重が三重塔を再建したと三福寺小池家文書「国分寺大平釘図」に記録されている。

現在の塔は、寛政 3 年（1791）大風で吹き倒されてから 31 年後、庶民の喜捨^{きしゃじょうざい}浄財金 800 両と大工手間 5,500 人工をかけて、文政 4 年（1821）ようやく竣工を見たものである。棟梁は 3 代目水間相模^{みずまさがみ}であった。昭和 53 年には屋根の修理と自火報設備、保護柵を設置した。屋根は、建立当初柿葺^{こけらぶき}であったが、大正 11 年に棧瓦銅板葺に変更され、昭和 53 年には銅平板葺となった。

飛騨では唯一の塔建築で、金剛界^{こんごうかい}、胎藏界の大日如来（真言密教の教主）を安置する。

参考文献

『高山の文化財』33～34 頁 高山市教育委員会発行 平成 6 年